

# 光といのち

第124号  
2020年5月25日発行

発行所  
真宗大谷派勝善寺  
〒299-2214

千葉県南房総市二部1344  
電話 0470-57-2657  
FAX 0470-57-2290

Eメール [ino-teyy@khaki.plala.or.jp](mailto:ino-teyy@khaki.plala.or.jp)  
URL <http://syozenji.or.jp/>  
住職 釋孝昌(井上孝昌)

いつでも、どこでも、

自分の居る場所に

救いがある。

湯浅成幸

皆さま、いかがお過ごしでしょうか。厳しい状況にある方もいらっしゃるでしょう。

ニュースを視れば毎日コロナウイルス。千葉県は緊急事態宣言が今だに続いています。

聞法会や集会がことごとく無くなり、法事や葬儀も今まで通りというわけにはいきません。

季節は巡りますが、いつもの生活には戻れません。

新型コロナウイルス感染症に罹りたくないし他人に移すことも嫌です。三密を避けマスクを着用しアルコールで手指消毒し、さらに石けんで手洗いするようになりました。

まだマスクを忘れてしまうこともありますが、だんだんと「新しい生活様式」とやらの、私の生活も変わってきました。

さて、題字下の言葉は、『親鸞さまのみ教え「真宗宗歌」に聞く』という本の「念仏の利益」という章にあります。

念仏は、南無阿弥陀仏と称えること。そこに与えられる利益つまり安心は、「今ここが私の居場所であった」というなずきだ。

コロナウイルス禍に惑い今までは違う時代社会に向っている今こそ、私たちの精神的な立脚地が念仏申す生活にあると確認するときです。仏教すなわち浄土真宗が輝くときです。

言うまでもなく「念仏の利益」は、私たちの願望が叶えられることではありません。

「念仏はとなえてから助かるのでなく、たすけられてある事実にならずいて生きること」と

前述の本にあります。その部分を見開きページに掲載しましたので、どうぞ味読ください。

また念仏申す生活について、「六字のみ名をとえつつ世のなりわいにいそしまん」という題で東京都練馬区にある真宗会館の日曜礼拝(五月三日)でお話ししました。「真宗会館YouTubeチャンネル」とパソコンやスマートフォンで検索し写真の映像を探してください。視聴できます。

それを視聴した方々から、電話やメールなどで感想が届きました。嬉しかったです。

船橋市にお住まいのNさんからは、以下のメールが届きました。

「コロナ旋風の終息後には、新生活様式が始まるとの説があります。テレワーク、オンライン診療など、コロナを契機にして普及が進むことでしょう。他にもいつでもどこでも自分が選ぶことにアクセスできる自由度が増えるのではないかと思います。これにより手に入る情報量は、じつとしていてもこれまでに比べて格段に増えることでしょうか、

高齢者には生きやすい生活になるかもしれません。

YouTube法話は、新生活の始まりではないかと思いました。単に音声だけではなく映像が伴うことで、より身近に感じることが出来ます。妻などは、お顔を拝見しながら法話を拝聴できたことで、ウツ感が薄らぎ不安な気持ちが一扫されたと申しております。これからも継続していただけたらありがたいと思います。」

もやもやとする心に一条の光が差し込みました。新しい時代社会に合う布教を試行錯誤していく力になりました。



東本願寺真宗会館  
お坊さんの話を聞こう

58:36

以下は、前記『親鸞さまのみ教え』からです。真宗宗歌二番「六字のみ名をとなえつつ」と念仏の利益」についての文です。

## 六字のみ名をとなえつつ

六字のみ名といいますのは、南無阿弥陀仏の六字の番号であります。名とは呼びかけであり、叫びであり、うなずきです。人から私の名を呼ばれても返事もしないと、相手が大事なことを呼びかけてくれても通じないですね。阿弥陀仏からの「あなたは、誰も代わってもらえない、また誰も代わっているのだから、他人に比べて羨ましがったり、相手を見下したりする必要はないでしょう。偽ものの自分にだまされないで、本当の自分を生きてください」という呼びかけが、わが身に本当にうなずけることができた深い喜びと、そこから立ち上がって生きる願力をもつことができたとき、「六字のみ名をとなえつつ」という、新たな生活が始まっていくわけでございます。念仏はとなえてから助かるのではなく、助けられている事実にうなずいて生きることを、となえつつといわれるのです。「となえる」というのは、口で「唱える」というだけではなく、「称える」といわれます。つまり「称

える」とは「仏の願いに叶う」ということと「仏のみ名を讃え」、その仏の声を聞きつつ生きるというところに「称名」、すなわち「六字のみ名をとなえつつ」というおこころがいただかれます。

阿弥陀如来のことを、実相身とか為物身いもつしんといわれていますが、実相身は、衆生（生きとし生けるもの）に真実を伝えるためにその阿弥陀仏という姿をあらわしたということ、為物身とは、闇にさまよう衆生（物）のためにあらわれた身ということです。私たちの身は、その仏の願いを聞いて、目覚める身でありますから、その目覚めた生活において念仏申すという具体的な実践行が生まれるのです。親鸞さまが、命終みゆうじゆうされた時のことを、『御伝鈔』には「念仏の息たえましましおわりぬ」（真宗聖典七三六頁）と表現されています。この念仏の息というところに、親鸞さまのご一生の極まりが讃えられているように感じます。

念仏の息とは、念仏の呼吸です。呼吸はあらゆる生命のはたらきを表しています。山川草木、人間も他の動物もみな、呼吸しています。その呼吸がいのちでしょう。いのちという平仮名は、息の血を略した言葉だといわれます。肺と心臓が、いのちを

象徴しているでしょう。生きているということは、脳は停止しても、呼吸と血液が働いている限り、生きているわけです。それを今日の人間社会は、脳の停止を人の死と多数決で勝手に決めていることは、やはり生きた生命を奪うのと同じでないでしょうか。『歎異抄』という親鸞さまの日頃語りかえし語っておられたお言葉の記録に「弥陀の本願には老少善悪のひとをえらばれず」（真宗聖典六二六頁）すべてのものが救われると伝えられています。生まれたばかりの赤ちゃんも、永年病床にあつて会話もできない人も、善人といわれる人も、悪人と批難される人も、男も女も、ひとしく救われる、といわれる意味は、すべて呼吸している存在が、如来のいのちであり、そこに平等ないのちの姿があります。そのことを見失っているわれら衆生に、仏は、真実のいのちに目覚めるように常に念じつづけていらっしゃる。まさに念仏とは、仏に念ぜられたいのちを表します。その念仏の息たえましましたという言葉に、親鸞さまが、あらゆる人びとを御同朋と呼びかけ、世のなか安穩なれと歩み続けられたご一生は、お念仏の一生であつたということが仰がれます。

## 念仏の利益

私は昨年、八女市にあるK寺の聞法会に若い住職さんから招かれてお話に行つた時、今日は「念仏の利益とは何か」についてお話をしてほしいというんです。その住職さんが小学生の時の同級生でもあるご門徒さんから、おばあさんの三十三回忌の法要の席で、「ご院家（住職）さんよ、お念仏するどんなご利益があるのかい」と聞かれたというんです。あまりにも真剣な眼差しと、突然な質問に、住職は大学を出て間もないこともあり理論だけでは通じないと思います、「いや、正直なところ俺もよくわからんよ。今度、お寺の聞法会に来られる講師と一緒に聞こうよ」といって、今日はその門徒の人も来ているので「念仏するとどんな利益があるのか」という題で話をしてほしいというのです。

そこで私は、お参りの方々に、「みなさん、これまで真宗の教えを聞いてこられたでしょう。今日は、さきほど説明しましたように、「お念仏するとどんなご利益があるのか」という質問に、おひとりずつ応答するつもりで、お念仏のご利益について、お話を聞かせてくださいませんか。実は、この質問をした人のおばあさんは、八十歳になっ

てからも、畑を耕したり洗濯などして、いつも、ナマンダブ、ナンマンダブとお念仏しながら生活していたというんですよ。で、お孫さんは小さい時から、そのおばあさんの人柄や優しさのにじみ出るような姿を見て育つて、とても尊敬していたというんです。でも、何で念仏しながら生活するのか、念仏って一体何だろう、念仏するところがないことがあるのか疑問を持つておられますのでみなさん聞かせてください」と申しました。お参りに来ていた人たちはそれぞれにお話されましたが、その若い男の人は、もうひとつ何かハッキリしない様子でした。すると今までだまって聞いておられた九十歳をすぎたおじいさんが、ぽつり、ぽつりと語り出したんです。

「私は、これまで戦争に行つて、いのち拾いしてきました。日本の敗戦後、むなしくなつて、親鸞聖人の教えを一生懸命聞かせてもらいましたが、最初はなかなかわかりませんでした。しかし家族にも先だたれ、ひとり暮らしになつて、しみじみ思いますが、ことは、私はお念仏に出遇つて、三つのことが自分にはつきりました。その一つは、仏法に遇わせていただき、人生における自分の居場所をハッキリさせていただきました

た。いつでも、どこでも、自分の居る所に救いがあるということです。二つ目は、人生の方向がハッキリしました。必ず浄土に参る身であることがわかりました。要するに、お念仏に出遇つて帰るところはみな同じ、人間の故郷は浄土であるということ。

三つ目は、この世にご縁のある限り、お出会いする人はみな浄土の朋友となつていただくということです」と語つてくださいました。私はその九十歳をこえた先輩のお言葉を参詣者の方々と深くかみしめさせていただき、「念仏の利益」は、人生そのものの利益であり、我が身のあるところ常に、仏に念ぜられ、法に育てられ、あらゆる人びとに同朋としての交わりをいただく「仏・法・僧」の「三つの宝」をいただいて生きる道であることを確かめさせていただいたのであります。

そして、最後に親鸞さまの、

南無阿弥陀仏をとなうれば

十方無量の諸仏は

ひやくじゅうせんじゅういによ  
百重千重圍繞して

よろこびまもりたまうなり

（真宗聖典四八八頁 赤本一〇七頁）

という「現世利益和讃」のおこころをあらためていただいたことでございます。



## 聞法会中止

左記を中止します。

記

5月21日13時半〜 中佐久間講  
6月3日13時〜 教区同朋大会  
6月4日13時半〜 組婦人研修会  
6月7日9時〜 八日講十日講  
6月14日14時〜 勝善寺聞法会  
6月17日13時〜 親鸞教室  
6月23日〜24日 真宗門徒の集い

月曜朝のお勤め・6月28日  
(日)の奉仕作業は、実施する  
予定です。

私たち真宗門徒の生活は、毎朝の勤めから始まります。今までなさっていない方は、初めてみませんか。人生が変わること請け合います。

みな様と寺は、葬式と法事だけの関係ではありません。

毎日の生活で見えたこと、寺報や当寺ホームページをご覧になって感じたことなど、葉書・手紙・電話・メールなどでお聞かせください。御同朋御同行として必ずご返事いたします。共に念仏申す仲間として、人生を歩みたいのです。

なお、パソコンやスマホで「南房総市勝善寺」と検索するとホームページが開きます。

## 台風15号被害の後始末

五月五日、隣家の狩野昌也さんと鐘楼山の倒れた桜と榎の大木や岩井川から川沿いの小径に溢れた水に運ばれてきた流木などを片づけようとしたところ、参道沿いにお住まいの北村洋子さん、峯信一さん、そして昌也さんの長男駿介さんが急遽馳せ参じ手伝ってくださいました。

台風禍のこの後始末がやっとできました。緊急事態宣言で、連休中なのに皆さん出かけられずに自宅に居たおかげでした。思いがけない共同作業に、伝染病にこわばっていた心も和みました。有り難うございました。野原での作業、三密ではありませんから、感染の心配は無いでしょう。



昼休みに、聖人川脇の空き地で、デリバリーの弁当を食べました。

## イノシシ被害

十年ほど前からでしょうか、イノシシが出没し山を崩し土砂が墓に落ちてくるようになりました。その都度朝倉正之さんにお願ひして一輪車で運び出し「俱会一処」の石碑脇の空き地に積み上げ山のようになっていました。

今年は例年になく大量の土砂が崩され何基もの墓を埋めました。朝倉さんが体調を壊されたので困っていましたが、大井設備さんが、専門外の仕事ですが引き受けてくれました。

能重雅光さんは、「寺のためならどうぞ」と、その作業に必要な運搬車を貸してくださいました。

運び下ろした土砂は今まで積んであった土砂とともに別の空き地に運び整地しました。おおよそ軽のダンブ二百台分あったそうです。そこは、いざという時には駐車場として使えそうです。

有り難うございました。

※本堂脇の墓地の通路部分の地盤が下がってしまったところがあります。近々修繕する予定です。



ヒマワリ

シラン

シャクヤク

アマリリス

クンシラン

エビネ

スミレ

寺を訪れた方が、ご自分で植えたり鉢植を飾ってくださいます。ヒマワリは、「コロナウイルス禍で店頭になぶこともなく咲いてしまいました。皆さんに見ていただけたら嬉しいです」と、生産者からいただきました。報恩講やお彼岸にも、その都度仏花をお供えして下さる方々がいらっしゃいます。有り難いことです。みな様の「寺のために」というお心が、仏法や寺を護持し相続してきました。